

# APNIC 40 カンファレンス参加支援プログラム に関する参加報告書

提出日：2015年10月12日

作成者：大阪大学 原口直大

## 1. はじめに

現在私は、大学においてキャンパスネットワークの整備、運用および保守業務を担当している。私自身、ネットワーク分野を専攻していたわけではなく、業務を通じて初めてネットワーク分野に携わった。そのため、ネットワークの知識や技術は業務を通じたものが中心であり、自習や視野を広く持つ心がけも、適切なものであるか不安があった。

その折、本支援プログラムを知り内容を確認したところ、私の不安に思っていた内容を補完する機会として最適であると考えた。また、最先端のインターネット動向や話題について直接携わることができること、意見交換の環境があることも、参加を希望する後押しとなった。加えて、短期間で会議の流れを含めネットワークに関する一連の流れを体系的に学ぶことから、この機会を是非とも活用したいと意志が強くなり、本支援プログラムの応募に至った。

本報告書では、出席したセッションと興味を持ったセッションについて触れ、参加目的の達成率や APNIC40 を通じて得られたことについて言及する。

## 2. 出席したセッションおよび特に印象に残ったセッション

ほぼ全ての時間帯のセッションに参加した。セッションの選択基準は、次のとおりである。

1. 自身の業務に対して高い関連性があること。
2. 業務に関連していなくても、興味がある内容であること。
3. カンファレンスの趣旨とその取り組みについて知ることができるセッションであること。
4. フェローとして、必須参加になっているセッションであること。

基準に照らし合わせ、条件にあったセッションに参加した。

## 2.1. 9月8日（初日）のセッション

初日に参加したセッションは、次のとおりである。

- Breakfast meeting with Sunny
- Opening Ceremony and Keynotes
- APOPS 1
- Newcomers Luncheon
- APOPS 2
- Lightning Talks
- Network Function Virtualization (NFV) BoF
- DNS Variant Management BoF
- Conference Opening Reception (Opening Social)

初日のセッションでは、カンファレンスやセッションの雰囲気がかめていないため、必須となっていたセッションと興味を持ったセッションを中心に選択した。

特に興味を持ったセッションは、APOPS 1 の Remco van Mook さんが発表された「The \$1,000 Internet exchange」である。「The \$1,000 Internet exchange」では、日本円で 12 万円程度でシステムを組めることにも驚いたが、このシステムは大掛かりなものであり、個人で組めるものではないと考えていたため、非常に驚いた。初日に自身の偏見に気づけこともあり、非常に良いセッションであった。

## 2.2. 9月9日（2日目）のセッション

2 日目に参加したセッションは、次のとおりである。

- IRR Tutorial and RPKI Demo
- Tutorial / DNSSEC
- Women in ICT Luncheon
- Hypes? Fanfares? Fads? Wading through the muddy IPv6 puddle
- Security Session
- Meet the APNIC EC Cocktail
- Fellows Dinner

2 日目は、初日の反省とカンファレンスの雰囲気から、仕事直結のセッションを中心に選択した。特に興味を持ったセッションは、Security Session の Kitisak Jirwannakool さんが発表された「Securing E-Gov of Thailand」である。日本でいう公務員の管理職含めて、情報セキュリティに関する実機を用いた訓練を行っていること、受講は義務化しているとのことだった。

### 2.3. 9月9日（3日目）のセッション

3日目に参加したセッションは、次のとおりである。

- Policy SIG 3
- AMM
- Mentoring
- APNIC Closing Dinner

3日目は、政治的な話題やルール決定の話題が中心であったため、興味があった話題がある Policy SIG 3 を選択した。その中でも藤崎智宏さんの「Which IP address should be used to implement IoT/M2M services?」を拝聴し、APNIC のセッションとして、ルール決定の重要性を考えさせられた。

### 3. おわりに

APNIC 40 カンファレンス参加支援プログラムに参加して、非常に良かったと感じている。本参加支援プログラムは「チャンス」を提供しているからこそ、確固たるビジョンを持っている必要がある。しかしながら、参加前のチャンスに対する見積りが甘かったため、チャンスに気づいても適切に行動することができなかった。特に、英語力不足によるスマートな雑談ができなかったため、ごくわずかしかコミュニケーションをとることができなかった。そのほか、得られた情報量が多すぎたこともあり、自分が何をしたいのかを見失ってしまった。見失ってしまったからこそ、自分が何に興味があるのか、何をしたいのかを探すつもりで、気持ちを切り替えカンファレンスに臨んだ。

総合的には、当初の目的については概ね達成したが、チャンスについて理解しただけでできなかったこと、技術者として未熟なことなど多く学ぶことができた。まずはカンファレンスでの経験をどのように反映していくか、自身のキャリアパスとしてどのように活かすか見つめ直し、今後の学習に努めていく所存である。